地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その78

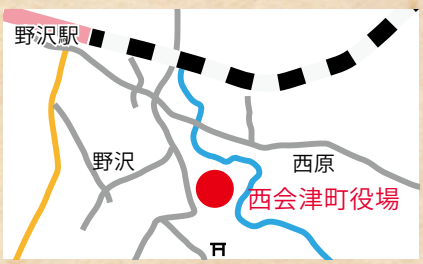
文：田﨑　敬修

いにしえよりずっと重要だった「野沢のある場所」

野沢にはあまり目立たないのですが、中世の昔から長い間空き地となることなく重要な建物が建っていた場所があります。それは、現在の「西会津町役場」の場所です。

横町の熊野神社に伝わる古文書によると、芝草の中野川沿いにある前山周辺に散在していた人々が大永２年（1522）に芝草の小屋田にあった熊野神社を現在の地に移して鬼門の鎮護とし、集落の名を「野沢」と決めて町割りをしたそうです。伝承によれば、その町割りより前の嘉元元年（1303）にはすでに地頭・荒井信濃守頼任があまり人家のなかったと思われるこの地に「荒井館」を建てて住んでおり、館には代々荒井氏の子孫が住んでいたそうです。その後、何かの理由で荒井氏が他の地に移ったのでしょうか。この館に当時、会津の盟主だった芦名盛氏に反旗を翻した大槻太郎左衛門が野沢本町村の大槻館（現在の遍照寺）から移り、天正６年（1578）まで住んでいたようです。

野沢小学校（明治45年撮影）



江戸時代になると、会津松平初代藩主保科正之の「お茶屋屋敷（本陣）」が建てられます。享保６年（1721）には「御本陣」と名称が変更されますが、寛政２年（1790）には原町（現町営駐車場付近）に新築移転となります。お茶屋屋敷の跡地には「社倉（飢饉などのために米を備蓄する倉）、郷倉（年貢米を一時保管する倉）」がありましたが、いつからあったのかははっきりしません。社倉・郷倉と並立する形で常楽寺脇にあった「野沢代官所」が文化７年（1810）以降、当地に移転します。

明治になると、明治元年（1868）から同２年まで同所に「野沢民政局」が開設されます。さらに明治５年（1872）、旧本陣宅の一部を使って開校した野沢小学校が同10年（1877）郷倉に移転し、その後、平成23年（2011）まで長期にわたり「野沢小学校」の地となります。

平成24年（2012）に同校校舎は町内５つの小学校が統合して「西会津小学校」になり、平成27年（2015）、森野の現在地に新築移転しました。そして、平成30年（2018）、小学校跡地に現在の「役場庁舎」が改築移転したのです。

（参考文献『西会津町』）

今月の表紙

今月は、９月10日に奥川みらい交流館で行われた奥川地区の敬老会から。マスク越しに微笑む佐藤利江さんです。

来年は全員がマスクなしで会えるようになることを楽しみにしています。

（２ページから関連記事）

編集後記

今回、町民ギャラリーの撮影に協力いただいた佐藤さんの作品に出ヶ原の風景と円満寺観音堂の写真が載っていました。撮影場所のすぐ近くに円満寺観音堂があるということで、帰りに行ってみました。整った茅葺屋根がかっこよく、国重要文化財にもなっている貴重な仏堂の姿に圧倒されました。（伊藤）

にしあいづ
広報にしあいづ №780　令和５年10月号
発行／福島県西会津町　編集／企画情報課　TEL 0241-45-2211（代表）
ホームページ　https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/
PRINTED WITH SOY INK
この広報紙は、環境に優しい大豆油インキを使用しています。